



さくら

題字 足立区長 近藤 やよい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 宮崎 十三
編集 広報委員会
発行日 2015年3月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



花保小3年 山口香苗 作「ふくろうの森」

目次

| | |
|-------------------------|---|
| 東京都民生委員・児童委員大会 | 2 |
| 新任 部会長 紹介 | 3 |
| | 4 |
| 視察 研修 報告 | 5 |
| | 6 |
| 介護ってなあに 子どもたちは 今 | 7 |
| ぶらり 足立 町会自治会「地域を訪ねて」 | 8 |



二人の誓い

足立区民生・児童委員協議会
会長 宮崎 十三

この度は、中田特別顧問におかれましては、名誉ある受勲、心よりお慶び申し上げます。

平成10年12月、私は吉岡合同総務の後任として初めて合同総務会（現会長協議会）に出席しました。その数日後、先の合同総務会について中田大兄の率直な考えが綴られた親書が届き、それが縁で二人の今日があります。長年の親交の中で、お互いの生い立ちや立場を理解し合い、時には熱い意見交換も行ったものです。

あれから17年、「木の陰や蝶と宿るも他生の縁（小林一茶）※」とありますように、二人の縁が絆となって夢と誓いを乗せた列車が今日も進んでおります。皆様の暖かい応援をどうぞよろしくお願いたします。

※一茶の句の中の木の陰に寄り添う二匹の蝶々の姿に中田特別顧問と自分を重ねている



この一年思うこと

足立区民生・児童委員協議会
特別顧問 中田 貢弘

会長を退任して早くも一年が経ちました。後任の宮崎会長は、私が在任中も身を惜しまず、支え続けてくれました。やはり各位の御推挽で会長に就かれ、その行績は大いなるものがあります。一年の間に4つの新しい企画を作り上げました。一つは、委員としての心得えの発行。二つは、コーラス部の創設、三つは、退任委員への功労バッジの贈呈、四つは、今迄無かった足立区民児協の会旗創設等です。また、25年度秋の宮崎会長の叙勲、26年秋の不肖私の叙勲と、都民連では極めて異例の続けての榮譽は、宮崎会長を始めとした各位の御尽力のおかげと思っております。足立区民児協は、素晴らしいリーダーのもと全委員で結束してゆくことを願って、御挨拶といたします。



第 68 回 東京都民生委員・児童委員大会



2月10日(火)文京シビックホールにて第68回東京都民生委員・児童委員大会が開催されました。

式典は国歌斉唱、物故者追悼の黙祷、信条朗読と続き、安藤東京都副知事、福田都民連会長の挨拶後、表彰・感謝状の贈呈となりました。

東京都表彰規則表彰(20年以上)112名、特別功労賞(17年以上)63名、一般功労賞(10年以上)48名の各代表者に壇上で表彰状が贈られた後、民生児童委員所管職員、関係機関・団体職員、東日本大震災子ども応援募金協力者に都民連会長から感謝状が贈呈され、来賓より祝辞を賜りました。大会宣言では、平成29年に設立100周年を迎える民生児童委員制度はこれまで積み上げた経験とネットワークを継承し、地域住民や関係機関との緊密な連携を確立していくことなどを誓いました。

第二部は江東区民生委員・児童委員の皆さんによる楽しいコーラスの後、大橋謙策氏より記念講演がありました。講演では今後の福祉サービスは地域で日常生活支援を受けつつ精神的な自立をめざすことが望まれ、民生児童委員にはこれまで以上に、住民と行政のパイプ役(福祉サービスを必要としている人を発見し、行政へつなぐこと)が期待されているとの内容でした。



(6地区 田中礼子 記)

平成 26 年度 民生児童委員各種表彰受賞者名簿 敬称略

叙 勲 瑞宝双光章

中田 貢弘

厚生労働大臣表彰

山本 祥一

厚生労働大臣特別表彰

飯塚 茂

東京都知事表彰 規則表彰

福田 久子 疋田 規子 榎本 のり子 梅田 伍子 鈴木 和男 藤波 道子
千葉 祐子

東京都知事表彰 特別功労

関根 純子 小林 勝子 川島 恵美子 坂野 正章 栗原 和子

東京都知事表彰 一般功労

黒川 薫雄 小林 尚子 島田 恒子 小張 悦子 堀口 勝廣 島村 裕子
丸山 まさ子 下岡 博子 多田 節子

全国民生委員児童委員連合会会長表彰 永年勤続民生委員・児童委員表彰

藤野 俊子

全国社会福祉協議会会長表彰

齋藤 武次

東京都社会福祉協議会会長表彰

根木島 大雄

足立区表彰 社会福祉功労

黒川 薫雄 小林 尚子 島田 恒子 小張 悦子 堀口 勝廣 市村 智
茂出木 幸子 島村 裕子 丸山 まさ子 下岡 博子 多田 節子

足立区民生・児童委員協議会こころの健康フェスティバル実行委員会



新任部会長紹介



児童福祉研究部会 早川元康 部会長



児童福祉研究部会の部会長に25年秋に選任されました、早川元康です。高齢化社会のなかで、将来の国の宝であります児童が抱えるさまざまな問題（児童虐待、教育、非行、いじめ、貧困等）を、短い期間ではありますが、施設訪問などして児童の現状を把握して見識を深めていきたいと考えております。

今年度は、こども支援センターげんきを始め3箇所の施設を見学いたしました。児童福祉研究部会の部会員25名が民生・児童委員として勉強したことが、これからの活動の糧となるよう全員で力をあわせて、進めていきたいと考えています。皆様方のご指導ご協力の程をよろしくお願い致します。

障がい者福祉研究部会 遠間道也 部会長



障がいには、複合的なもの、年齢、家族等との関係によるものなどがあり、一人ひとりの状況は異なります。諸施設を見学し、職員の方から障がいの種類・程度・生活への影響等の実状を学び、入所者との対話により日常生活の現状に触れ、部会メンバー相互の体験を広め、理解を深めていきたいと思っております。

さらには、部会メンバーとして、従来接することの

なかった人たちと会話を重ね、新たな友人・知人の輪が生まれ、最終的には部会メンバーとしての3年間は有意義であり思い出深い活動となって欲しいです。

これらの活動を通して、民生・児童委員の役割との関連性について考える習慣が付き、その理解を深めていけたら有り難いと思っております。

先ず障がいについての基礎知識を学び、テーマは2年目に設定することにします。

生活福祉研究部会 齋藤敏彦 部会長



一昨年12月の改選により部会長に選任されました齋藤です。25名の部会員と楽しく学習し協力し健全な地域社会づくりに努めたいと考えております。

現在、最も深刻な問題は生活保護世帯数が過去最多と言われていることです。生活福祉研究部会として、その実態と実状をしっかり学び把握いたします。生活

保護法、生活福祉資金、福祉施設研修など講習を受け、意見交換をし、多くの情報を得て知識を深められれば幸いです。そして民生・児童委員として地域にどう役立つことが出来るのかを学び、部会員一同で社会福祉の向上に努めます。

最後に先輩諸氏のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

高齢者福祉研究部会 宮田房子 部会長



高齢者福祉研究部会の部会長に選任されました宮田でございます。これから益々高齢社会となり、一人暮らし、老々介護、認知症等々、自分らしく地域で楽しく暮らしていけるか、課題が山積しております。

部会研修では、高齢者の消費者被害の防止について、どのような対策が良いのか勉強いたしました。まず見守りをする。見慣れない人がよく出入りする、家に段

ボール箱や郵便物が頻繁に届いている、見慣れない商品が大量にあるなどが見守りのポイントです。場合によってはクーリングオフが出来ることも学びました。

2回目は高齢者の疑似体験を全員がいたしました。平均寿命が延び元気で楽しく地域で暮らせるように見守っていききたいと思います。

私達部会員は地域の絆作りをしっかりと出来るよう、学んでいきたいと思っております。

広げよう 地域に根ざした 思いやり



視察研修報告

第一合同

介護老人保健施設見学と糸魚川の歴史と文化を訪ねて

10/16~17

私たち第一合同は、晴天に恵まれた平成26年10月16日に介護老人保健施設「ハーモニー」のある松本市をバス2台で目指しました。

ハーモニーは、空気のおいしい北アルプスを望む緑豊かな環境にあり、松本市の中心にあって利便性の高さも併せもっていました。回廊式建物で、中央に広々とした中庭を憩いの場所として配し、ゆったりとした施設でした。

介護老人保健施設は、自宅で自立した生活が送れるよう支援し、リハビリを行い在宅復帰を目指すのが目的の中間施設です。入居は3カ月~6カ月で最長2年のお客様（利用者）がいるそうです。

翌17日には、糸魚川の犬断層フォッサマグナ、塩の道資料館、翡翠園を見学して帰路に就きました。東京から新潟（日本海）までの長い研修お疲れ様でした。



▲宿泊先「ホテル国富翠泉閣」にて

(常東地区 齋藤祐子 記)

第二合同

盲導犬や視覚障がいについての理解を深める

10/26~27

「盲導犬や視覚障がいについての理解を深める」ために、第二合同の宿泊研修では静岡県富士宮市の日本盲導犬総合センター富士ハーネスを視察しました。

この施設では、盲導犬の育成（繁殖、出産・飼育、盲導犬訓練、共同訓練、引退犬の生活）を一貫して行っています。



▲富士ハーネスでのデモンストレーション

盲導犬の資質は遺伝によるところが大きく、優秀な繁殖犬の確保は盲導犬育成の課題であり血統を確保するため人工授精にも取り組

んでいるとのこと。訓練は施設内や市街地で約半年から1年間行いますが、訓練終了後すべてが盲導犬になれるわけではありません。盲導犬になれなかった場合、PR犬等として普及活動に従事するそうです。

今回の視察では、仕事（ハーネスや表示をつけた状態）の盲導犬への接し方で注意すべきことを4点学びました。①話しかけない②じっと見つめない③勝手に触れない④飲食物を与えない

以上のことを守り仕事の邪魔をしないようにしましょう。

視察後は、由比宿の「東海道広重美術館」を見学し、堂ヶ島温泉で1泊、懇親会では全員で輪となり踊り、翌日は奥石廊崎や白浜神社を参拝して有意義な研修が終わりました。

(18地区 鶴田晴久 記)

6/24 東京都民生・児童委員協議会 新任会長副会長研修報告

地域社会を取り巻く環境の変化に伴い民生・児童委員の活動はますます困難になってきていると言われてます。仲間同士で協力し合い、または支え合い、委員が円滑に活動を進められるような民児協の仕組みづくりが求められています。

今回の研修は、一人一人が生き生きと活動できる活力に満ちた民児協運営を目指し「定例会を切り口に考える」を中心に学びました。

参加者は各グループに分かれて、定例会に関して次の5点について意見交換・情報交換をし、今後の定例会運営の参考にしていくことでした。

- 1、開催曜日と時間帯、会議の時間、頻度、会場
- 2、進行役と進行の方法（次第）、座席の位置、レイアウト
- 3、議題及び配布資料の決め方、関係者の事前打ち合わせ、資料準備方法
- 4、出席する関係機関と定例会への関わり方（内容、方法等）、座席位置

5、民生・児童委員の資質向上のために定例会の中で行って（工夫して）いること

私のグループは墨田地区、奥戸地区、亀有地区、下馬地区、金町地区の6名で意見や情報などを話し合いました。葛飾区は研修会を毎月1回行っているとのこと、墨田区では自主研修



弘道第一小3年 福島遥香 作「魚いっぱい海」

会は全て事務局が準備していること、その他毎月の定例会議に向けてテーマを決めて事前準備している等、参考になるお話があり今後の活動に生かしていきたいです。

(佐野地区 木内信雄 記)



視察研修報告

第三合同

肢体不自由児・者の入所施設の実情を学ぶ

11/9～10

第三合同は静岡県掛川市にある「ねむの木学園」を視察研修しました。

初日は静岡市浅間神社で七柱の神様に参拝し、学業・縁結び・無病息災などを祈願しました。添乗員さんに成就した暁には地元の神社でよいので、必ずお礼参りをするようにと教えていただきました。宿泊は館山寺サゴロイヤルホテルで親睦を深めました。

翌日は車中で中部生活保護第二課山田課長に「障がい児・者福祉について」の研修をしていただき、その後「ねむの木学園」を視察致しました。創立47年目になり、児童よりも成人の受け入れが多くなり、70歳の方もいるとのことでした。

また、足立区からも児童相談所を経て入所している児童もいます。そして毎日『やさしくね、やさしくね、やさしいこと



▲ねむの木学園にて

はつよいのよ』と皆で唱和して一日が始まるそうです。

実行委員の方々ありがとうございました。

(11地区 櫻井春子 記)

第四合同

いわき市の“被災体験”に学ぶ

11/24～25



▲いわき市社会福祉協議会にて

研修2日目の25日、いわき市社会福祉センターで、いわき市社会福祉協議会地域福祉課草野 淳課長から「いわき市の被災体験と被災後の活動について」の講

演をいただきました。地震発生、原発の事故から再建・復興の道のりを、ご自身の体験談をまじえてお話いただきました。

災害時、民生・児童委員は緊急連絡カード配備者と要援護者の安否確認をし、公民館から救援物資を徒歩または自転車ですら運搬したそうです。現在人口約33万人のいわき市は、震災後、原発関係被害者・除染作業員他約3万人以上を受け入れたため新たな問題も起きているということでした。

昼食後、塩屋崎の北、豊間・平薄磯地区を視察しました。11回以上押し寄せた津波で壊滅的被害を受け、何もなくなくなってしまった風景に言葉がありません。多くの課題を抱えながらも、前に向かって歩んでいる力強い“いわき”を感じた研修でした。

(8地区 森葉子 記)

「絆づくり」シリーズ5 お互いさまのまちづくり ～隅田自治会の取組み～

足立区中川の隅田自治会では、26年1月から「孤立ゼロプロジェクト」の実態調査を行いました。調査にあたり地域では自治会に未加入の方が約半数もいるため、自治会と民生・児童委員が連携して調査を行うこととなりました。

調査終了後の4月に調査結果報告会を開催いたしました。報告会の中で、調査を担当された自治会の方から「民生委員さんにも一緒に回っていただき順調に出来た」、「今後、自治会として支援活動をしてはどうか」という意見や調査の感想が報告されました。

自治会として支援活動をとという意見を受け、6月には自治会担当者や女性部員等に参加を依頼し、「絆のあ

んしん協力員」登録研修会を開催、参加者34名のうち3分の2以上の方が絆のあんしん協力員に登録しました。現在、中川地域包括支援センターや担当の民生・児童委員と連携しながら、地域で気になる方々へのお声掛けや見守り活動が始まろうとしています。

中川地区はこれまでも防災や防犯の取組みに地域を上げて取り組んできましたが、「孤立ゼロプロジェクト」をきっかけに、お互いの顔が見え、様々な方が少しずつ地域に関わり支えあう、そんな『お互いさま』のまちづくりがさらに進んでいくものと思います。

(18地区 鶴田晴久 記)

5/17 都民連新宿パレード

5/18～5/24 PR 週間

今年もやります! PR 週間 みんなで盛りあげよう!



視察研修報告

第五合同

東日本大震災から3年半 三陸鉄道・震災学習列車に学ぶ 10/19～20



▲震災学習列車 釜石駅にて

後、懇親会前には地元の「(社)おらが大槌 夢広場」の方で婚約者を亡くされた方より震災時のお話を聞く機会を得ました。

2日目は、三陸鉄道南リアス線「震災学習列車」で釜石から盛岡までの10駅を約1時間余体験乗車しました。国内外の大きな力添えと地元の努力によって、ようやく

走行距離は、往復1200km。東京から釜石、大槌、実にハードな行程でした。往路の車中での事例紹介、震災時のDVDの視聴等の研修。

宿泊地到着

この春に復旧しました。車中では、三陸鉄道社員の方より徐行運転、一旦停車などをしながら説明があり、途中駅のホームに降り立ち全員で黙祷を捧げました。同行の方々の中で、お一人ご実家のお兄様夫妻が被災され、未だに仮設住宅にお住まいの方がおられました。震災後、幾度か郷里へ戻られたと聞いておりましたが、車窓からかさ上げされブルーシートに覆われた実家の風景を目にし、胸のつまる思いだったに違いありません。

帰路にて、あの「奇跡の一本松」陸前高田の巨大なかさ上げ復興工事を目の当たりにしました。かつての緑あふれ、潮の香豊かなこの地が再生の道を歩み、再び住民の方々の笑顔を取り戻すことを望みます。

震災一年目、二年目、三年目と人々の記憶の底から消えつつありますが、三陸の現状に接し、有意義な視察研修であったと思いました。

(13地区 坂井潤子 記)

第六合同

世代間交流の拠点を見学する 9/19～20

今回、私達第六合同の視察研修は静岡県沼津市にある、高齢者等福祉世代交流活動施設『千本プラザ』を視察し、堂ヶ島温泉にて、一斉改選後の一年目の宿泊研修ということで、もう一つの目的である委員間の連携と親睦を深めるために行き参りました。

研修先の『千本プラザ』は、多目的ホール、老人福祉センター（浴場、健康回復室）等を含む在宅支援機能を有したすばらしい施設でした。しかし、利用者減少の課題があるようです。

今回の宿泊研修は実行委員で企画しました。行程の中で少し近いのではという不安を聞きましたが、二日目の『岩科学校』『長八美術館』などの見学、そしてフェリー

での移動で、ゆったりとした時間を過ごせました。

委員の一人が「他の地区の方と顔なじみになるのは良いですね」この一言で大成功だと思い、実行委員会の方に感謝致します。



▲千本プラザ集会室にて

(湖江地区 会長 坂田誠 記)

第七合同

ハンセン病の社会的差別・偏見の歴史を学ぶ 9/28～29



▲国立ハンセン病資料館にて

中で家族や古里を捨てさせられ、死しても古里の墓にも入れずに、納骨堂に眠る遺骨の数々。また、自身が病気であるのに、病人の看護をしたり様々な労働に従事しな

秋日和の中、第七合同の宿泊研修は、国立ハンセン病資料館と国立療養所多摩全生園の見学から始まりました。かつて不治の病とされ、国の強制隔離政策と偏見や差別の

ければならず、療養所と言うより生涯出ることの出来ない監獄のような場所でした。そして家族と引き離された幼い子ども達の生活の記録など、一つ一つの展示品に、胸の痛む思いをしたのは、私だけではないと思います。

全生園の入所者の皆さんが萎えた手で病をおして開拓した土地に植樹した「人権の森」を歩き、入所者の皆さんの怒り・哀しみを喜び・楽しみに変えた、緑豊かな森の風景とともに命の尊さ・人権が尊重される社会の大切さを痛感しました。

後は、川越散策と伊香保温泉一泊、翌日みなかみ町「たくみの里」、川場村吉祥寺花の寺などを散策して研修を終わりました。

(17地区 金子みどり 記)



介護ってなあに

老後を考える シリーズ2

デイサービス



映像でたびたび紹介され、話題になっている介護施設「ラスベガス」が本木西町にあります。町内に住む民生・児童委員2名が訪問しました。

名称の通り、こちらは室内でパチンコ・パチスロ・麻雀・バカラ・トランプ等の遊具を使い、ゲームを楽しみながら一日を過ごす通称「カジノ・デイサービス」です。

通所者は黒色のワゴン車でお迎えされ、健康チェック後、オリジナルのストレッチ体操をすることで施設内通貨「ベガス」を手にして、この通貨で遊びます。手先を動かし、点数を計算し、ゲームの先を読むことで頭を使い、勝敗がつくことで「うれしい」「くやしい」という感情や笑顔が生まれ、リハビリに繋がると

いう狙いです。多くの国に存在するカジノでお年寄りがイキイキと過ごす姿を見たことがきっかけになったそうです。利用者が自由に選択した遊びで、静かにゲームを楽しむ空間はデイサービス施設とは思えませんでした。



(8地区 森葉子 記)

子どもたちは今 シリーズ1 —始めるにあたって—

私は、平成26年11月17日(月)に民生・児童委員研修を受講してきました。テーマは「子どもの貧困」、講師は立教大学コミュニティ福祉学部 湯澤直美教授でした。児童虐待・いじめ・不登校など複数の問題を抱える可能性の高い「低所得世帯の子どもたち」に焦点を当て、実状の理解を深め、課題に対して民生・児童委員としてできることを考えていくよい機会になりました。

「国民生活基礎調査」(厚生労働省)による相対的貧困率の年次推移からみると、大人に比べて子どもの貧困率の方が悪化の割合が高くなっています。また、突出するのは、ひとり親世帯の相対的貧困率でした。子育て世帯の生活基盤が非常に悪化しています(研修資料

より引用)。

このように、子どもを取り巻く環境が変化し、社会の問題としてとらえることが重要だと思えます。そこで、足立区における支援体制や施設などをこれから紹介していきたいと思えます。



(常東地区 齋藤祐子 記)



弘道小2年 羅光泰 作「いろんなつみき」

足立区立第六中学校

- | | | | |
|-------|----------|--------------------------|----------|
| かき氷 | パステルカラーに | 胸おどる | 二年 佐藤 由花 |
| 花火より | みんなの笑顔 | 満開だ | 二年 川西 蘭 |
| 月光が | 夜桜照らす | 白き闇 | 二年 松田 歌風 |
| 夏休み | 昼間に食べる | コッペパン | 二年 中井 諒季 |
| なでしこの | 花を見ながら | 川遊び | 一年 藤井 俊平 |
| 太陽と | 一緒に走る | 金亀子 <small>こがねむし</small> | 一年 上津 弘暉 |
| 鶴ヶ城 | 深き青葉の | 堀の樹々 | 一年 星野 和平 |

中学生俳句コーナー

足立区は活動記録提出率 100% 継続中です



ぶらり足立 東綾瀬公園



東綾瀬公園は、綾瀬駅の北側にあります。公園内には、野球場（ナイター設備付）・テニスコート・ゲートボール広場・温水プールなどがあり、東京都・足立区・町会などの各種イベントに使われ、地域の人々が幅広く利用しています。公園の総面積約158,900㎡、全長約2km、馬蹄の形状で管理事務所を備えた整備された公園です。春になると、桜が約500本咲き、桜一色になり地元の名所となっています。遊歩道周辺にある、せせらぎ・池・花壇と桜が重なって、散歩する人の心を和ませてくれます。土・日曜日はお弁当を広げる家族連れ、散歩する人々で、公園内が賑やかになります。この時期は、心に残したい景色が多く見られます。カ

メラを持って散歩してはいかがでしょう。

また、東綾瀬地区の民生・児童委員は、この公園内を通る際、子ども、お年寄りを見守りながら通っています。



(東綾瀬地区 山崎秀夫 記)

町会自治会「地域を訪ねて」シリーズ1 新田町会

新田町会は毎年12月第一土曜日にカラオケ・ダンスパーティーを実施しています。開始当初から地元企業の体育館を会場として提供していただいておりますが、企業が移転したため開催出来ない時期が続きました。



十数年前に町会会館が完成し、会場の問題もクリアー出来、再び開催出来ることとなりました。

当地区は最近大規模な集合住宅ができ、子どもが増えましたが、高齢化も進み一人住まいのお年寄りも多くなっています。このような方々にも参加していただき、人との繋がりを作るきっかけになればと思っています。

カラオケ・ダンスに参加しなくても、1階の飲食場で歓談できますし、2階のカラオケ・ダンスにも見学参加も出来ます。催しの最後に行われる抽選会では、当たり番号が読み上げられる度に歓声と溜息が起こり、当たった人も外れた人も笑顔で進行を楽しんでいました。

地域の絆づくりとは、こういうことの積み重ねだと気づかされる有意義な一夜でした。

(江新地区 福原稔 記)

編集後記

新しいメンバーとの編集会議も一年を過ぎました。段々と息も合い、手前味噌ながら魅力的な広報紙になってきていると思いたい今日この頃です。

携帯電話のメール文を何度も読み返し、手直しして送信するのは職業病？のひとつでしょうか。

原稿を書かれた方の文章を拝読しながら、伝えたい気持ちを考える。そして文章の裏に隠された「想い」を汲み取るという難問に苦戦中です。

(4地区 江川明美 記)

民生委員・児童委員発

災害時一人も見逃さない運動

○小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、
第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。

○皆様の原稿を募集いたします(原稿は未発表のものに限ります)。次号発行予定日 7月1日

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-----|------|------|-------|----|------|----|-------|----|-------|-------|------|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|-------|------|
| 広報委員会 | 委員長 | 秋本雅信 | 副委員長 | 藪下奈穂美 | 書記 | 鶴田晴久 | 会計 | 金子みどり | 編集 | 小島千恵子 | レイアウト | 木内信雄 | 校正 | 江川明美 | 編集委員 | 齋藤祐子 | 山崎秀夫 | 田中礼子 | 渡邊進子 | 櫻井春子 | 森原稔子 | 福原潤子 | 坂井まさ子 | 丸山恒雄 | 鈴木恒雄 | 校正委員 | 秋葉千秋 | 山本滝子 | 志賀口博人 | 久保幸子 | 福岡佳須子 | 戸張光子 | 西野いちよ | 高橋和枝 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |